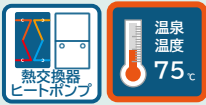


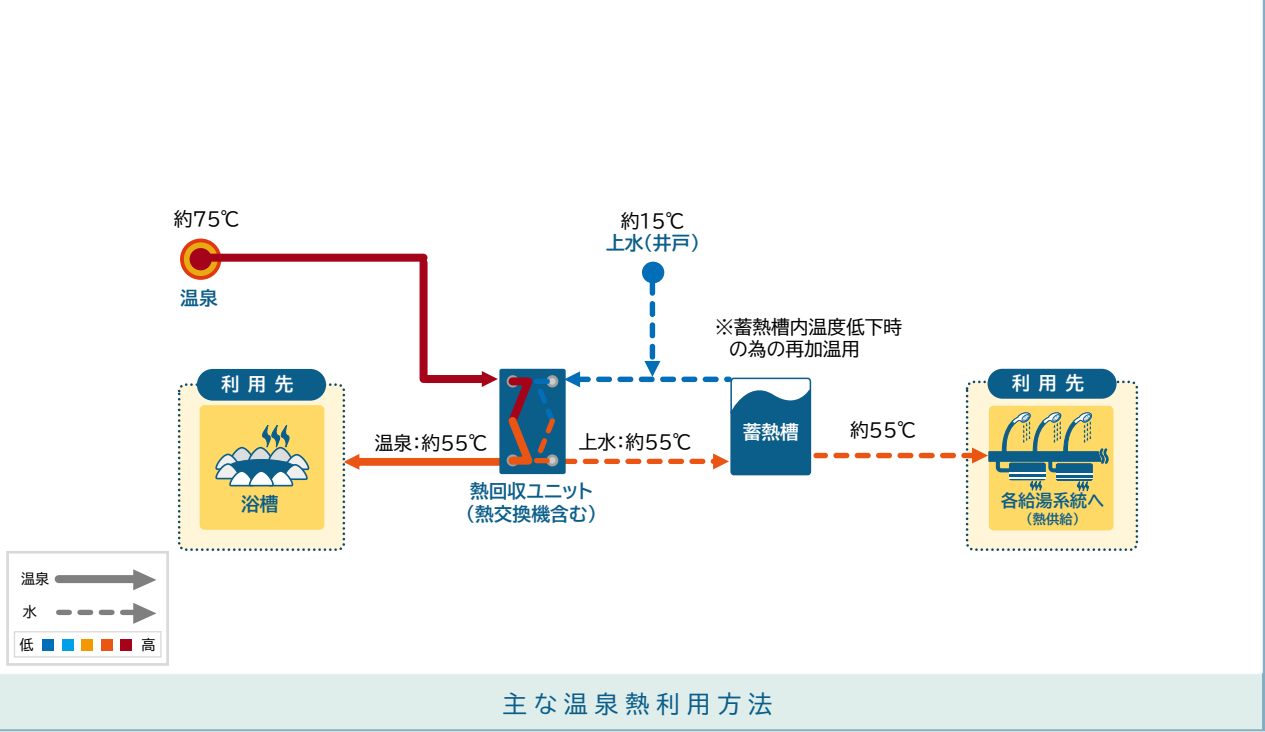
熱川プリンスホテル



概要

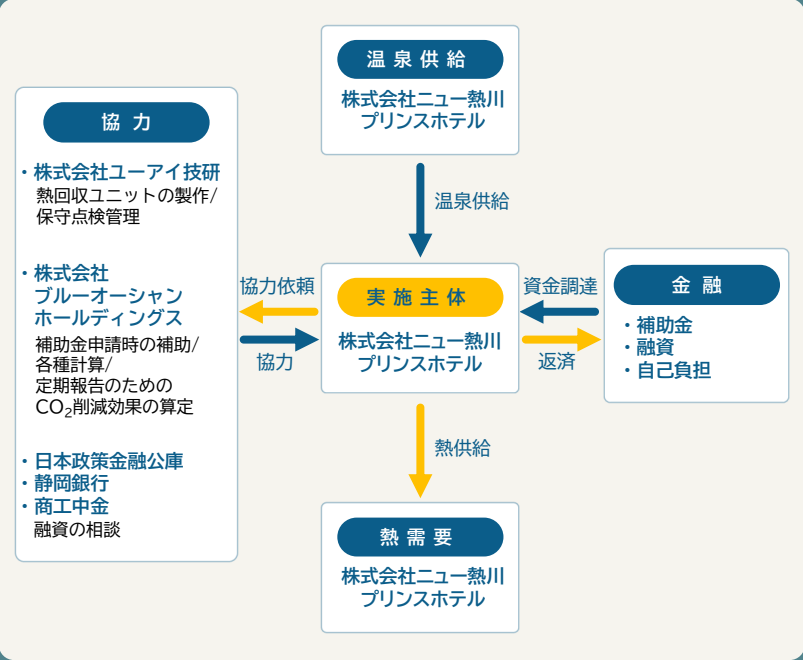
東伊豆町で自噴している熱川温泉は源泉温度が高いことが特徴で、水(井戸水)で薄めることで適正温度にした後に、各浴場設備にて提供している。「出来る限り温泉を薄めず、お客様に温泉をより濃く味わってほしい」という思いから、補助金を活用して熱回収ユニット(熱交換器含む)の導入を行い、温泉熱の給湯利用を行った。余剰熱を給湯に活用することで源泉への加水量を削減できるだけでなく、上水加熱のためのエネルギーコストの削減、並びにCO₂排出量の削減に成功した。

泉質	ナトリウム-塩化物・硫酸塩温泉	CO ₂ 排出量削減効果	エネルギーコスト削減効果
熱利用温度	55℃	85.1 t-CO ₂ /年相当	37 万円/年相当
利用温泉	既存温泉	削減 ※1	削減 ※1
総事業費	約995万円(一部補助金あり)		

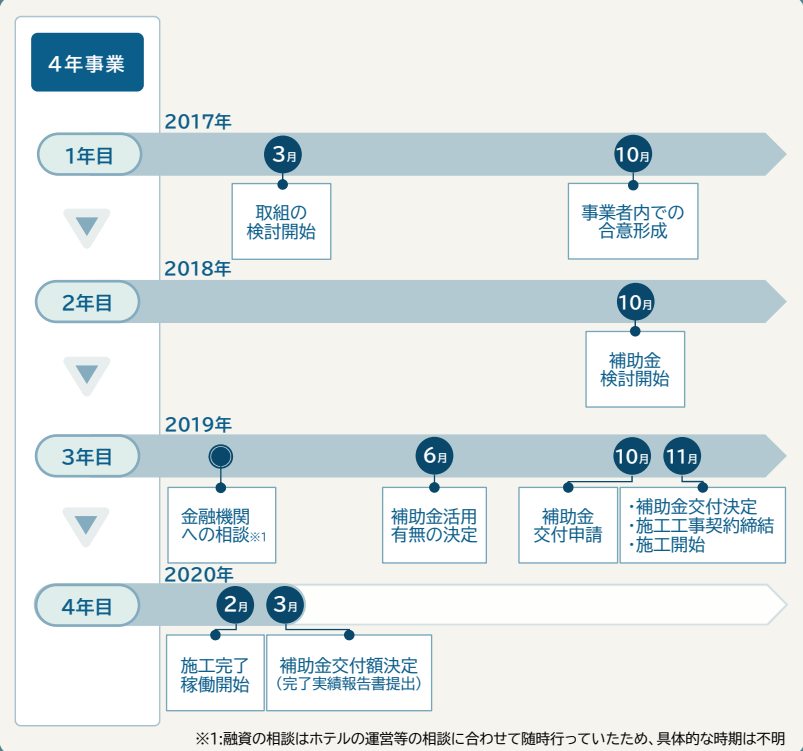


※ 本事例は「令和3年度温泉熱等の有効活用等普及促進調査等委託業務」にて調査・整理した事例であり、掲載情報は調査当時のものであることから、詳細な状況は変更されている可能性があります。
※ 1: CO₂排出量削減効果とエネルギーコスト削減効果は補助事業実績報告書に基づいた数値です。

実施体制



事業検討の流れ



※1: 融資の相談はホテルの運営等の相談に合わせて随時行っていたため、具体的な時期は不明